

# 中央検査部



診療部 HP



## 1. スタッフ

部長 (教授) 田中 靖人  
副部長 2名、講師 1名、  
医員 1名  
臨床検査技師 50名、  
看護師 11名、事務職員 1名

## 2. 診療科の特徴、診療内容

中央検査部は、本院における高度な診療・研究・教育のために欠かすことができない部門であり、臨床検査専門医と臨床検査技師が協力し、大学病院が果たすべき役割を絶えず意識しながら、ルーチン業務から先進医療に関する検査まで、幅広く臨床検査活動を実施している。

検体部門では、IT を駆使した次世代型の検査システムを導入し、検査依頼から結果までの情報を一元管理している。患者の検査進行状況をリアルタイムに確認することで、迅速かつ質の高い検査データを提供している。平成 28 年度には、RFID(検体の自動認識システム)の導入を病棟に拡大し、検査前プロセスの包括的な把握により、更なる迅速な検査の提供に取り組んでいる。また、病棟設置の測定機器のメンテナンスや使用指導等にも取り組み、チーム医療の推進にも寄与している。

先進医療などの高度な検査にも対応しており、他院からの検査依頼など、地域において高度検査の中心的な役目を果たしている。平成 21 年 2 月にオープンした「検査カフェ」も、生活習慣病を中心とした項目に加えて、心血管系リスク検査、流行性ウイルス感染症抗体検査などをラインナップし、更なる拡充も図っている。この結果、地域住民の健康管理と臨床検査の啓発活動として定着している。

## 3. 診療体制

### ○外来及び診療体制

検査に関する病院内外からの問合せには、スタッフが随時対応している。また、時間外検査においては令和 4 年 8 月より 2 名体制を構築し、緊急時の対応の強化を図っている。時間外検査において昨今の感染症に対応すべく、インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、尿中肺炎球菌抗原、尿中レジオネラ菌、RS ウイルス及び A 群β溶血性連鎖球菌におけるイムノクロマト法を用いた抗原検査も 24 時間体制で実施している。また、採血室専属の看護師を配置し外来患者の待ち時間の短縮に取り組み、外来診療活動に大きく貢献している。

### ○病棟診療体制

迅速で正確な検査結果の提供に向け、病棟からの早朝検体提出に対応を行っている。また、院内における重要な多職種横断的活動の一つであるNSTにおいても、各種検査データの提供を行うなど、大きく貢献している。微生物部門は、休日を含む 24 時間監視体制で感染情報を提供し、ICT 活動にも貢献している。検体検査部門では、ICU や CCU、手術部、救急部、NICU などの検査機器の保守、精度管理を実施しており、医療安全とチーム医療への貢献を図っている。

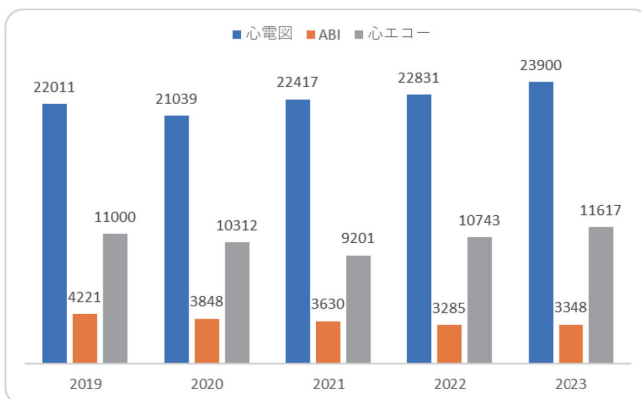
## 4. 診療実績

### ○令和 5 年度における臨床検査件数 (入外別)

令和 5 年度検査実績 (検査件数)

	令和 5 年度臨床検査件数			
	外来		入院	
	件数	%	件数	%
尿・糞便等検査	58,523	1.56	15,531	0.69
血液学的検査	140,727	3.76	90,233	4.00
凝固検査	116,549	3.11	160,525	7.11
生化学的検査	2,980,179	79.64	1,839,810	81.54
免疫学的検査	274,871	7.35	80,789	3.58
微生物学的検査	13,719	0.37	51,634	2.29
生理機能検査	35,150	0.94	15,979	0.71
採血・採液等検査	114,309	3.05	0	0.00
遺伝子学的検査	7,809	0.21	1,782	0.08
計	3,741,836	100.00	2,256,283	100.00

### ○心電図、ABI 及び心エコー検査件数の年次推移



## 5. 先進的な医療への取り組み

当部門が力を注いでいる取り組みの一つであり、大きな成果を上げている。近年、がんゲノム医療の推進がなされようとするなか、当部ではいち早く次世代シーケンサーによるゲノム解析基盤の構築に着手している。また、質量分析を用いた細菌同定検査や迅速検体検査システムなど、新規開発された検査機器も積極的に導入し、その評価と適用を行ない、国内の臨床検査をリードしているといえる。

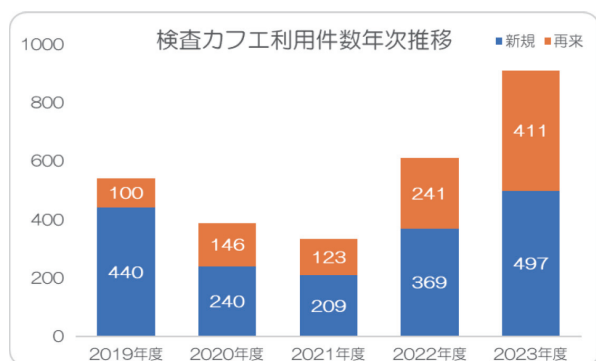
## 6. 臨床研究・治験への支援

業務の効率化を目指し、新規検査法の試験を行っている。臨床研究や治験では、適切な検体採取と保管に協力している。また、データベース化された検査情報を必要に応じて出力し、適宜提供できるように、臨床検査データセンター機能も強化するとともに、臨床研究に必要な特殊検査などへの対応も開始した。また、2022年5月に発足した熊本大学病院バイオバンク事業において、同意が得られた患者の血液（血清・血漿・Buffy coat）、尿及び組織の保管・収集への協力・支援を行っている。

## 7. 地域医療への貢献

新しい検査医学の知見に関する啓発活動として、熊本地区の検査医学に関する研究会、勉強会を企画し、開催している。また、熊本県・熊本市及び県医師会の臨床検査精度管理委員会と連携して、より精度の高い検査値の提供に向けて活動を行うとともに、精度保証の教育や事業に携わっている。

全国の国立大学病院唯一の試みである「検査カフェ」は、平成21年に開始し、地域住民の方々に利用していただいている。本事業は、受診者が自由に検査項目を選択し、詳細な結果説明を付記したデータを郵送するもので、地域社会において大学病院に対する親近感や健康意識を高めることに大きく寄与している。



## 8. 医療人教育の取組

当部門の教育は、医学部学生、臨床検査技師養成大学学生、研修医に対して広く行われている。医学部学生に対しては臨床実習入門、臨床実習などを通して検査医学の重要性を認識してもらうよう、医療活動のなかでの検査医学、検査部が果たすべき役割や最新の検査法をわかりやすく講義するとともに、実際の検査活動の場で体験学習できるよう工夫している。

## 9. 研究活動

診断・治療法の開発と先進医療の開発を目指し、臨床検査の視点から研究活動を行っている。具体的には、1. 新たな遺伝子検査手法の確立、2. 癌の病態解析、バイオマーカーの探索、3. 造血器腫瘍関連遺伝子変異の分子生物学的解析、4. 新たな検査法の確立に向けた研究、5. 非侵襲的心機能評価の研究（超音波検査を用いた様々な疾患の病態解析）などである。また、上記研究項目ばかりでなく、各診療科、薬学部、医学部医学科ならびに保健学科などから依頼のある研究テーマについては、可能な限り共同研究としてサポートする体制を整えている。

○専門医等：臨床検査専門医1名、消化器病学会専門医・指導医1名、肝臓学会専門医・指導医1名、消化器内視鏡学会専門医・指導医1名、内科学会認定内科医・専門医3名、循環器学会認定専門医1名、超音波専門医・指導医1名、心臓血管麻酔学会日本周術期経食道心エコー（JB-POT）認定医1名、ほか。

○検査技師専門資格：超音波検査士（循環器）10名、超音波検査士（血管）8名、超音波検査士（産婦人科）1名、超音波検査士（消化器）4名、超音波検査士（体表）3名、超音波検査士（泌尿器）1名、心エコー図学会認定専門技師1名、血管診療技師1名、認定心電図検査技師1名、JHRS認定心電図専門士1名、心電図検定2級1名、神経生理学学会専門技術師1名、細胞検査士1名、認定臨床微生物検査技師3名、感染制御認定臨床微生物検査技師3名、インフルエンザコントロールクター1名、二級臨床検査士（微生物）6名、二級臨床検査士（呼吸生理）1名、二級臨床検査士（病理）1名、二級臨床検査士（免疫血清）2名、二級臨床検査士（循環生理）6名、二級臨床検査士（臨床化学）1名、二級臨床検査士（血液）5名、救急検査認定技師1名、緊急臨床検査士10名、認定血液検査技師2名、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師4名、認定輸血検査技師3名、細胞治療認定管理士3名、I&Aインスペクター1名、認定HLA検査技術者1名、認定HLA検査技術者、認定一般検査技師1名、医療情報技師2名、遺伝子分析科学認定士1名、糖尿病療養指導士1名、健康食品管理士1名、熊本県肝疾患コーディネーター8名、栄養サポートチーム専門療養士1名、ほか。

○競争的研究費：文部科学省関連代表分1件（若手研究一般）、大分大学グローバル感染症研究センター共同研究金1件、ほか。